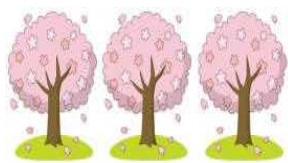


高取小だより

令和7年9月5日



三本桜

第19号

ふかく考える子 あたたかみのある子 がんばりのきく子
9月の目標：伝わるあいさつをしよう

チャレンジ夏休み発表会をきっかけにして

夏休みに実施したチャレンジ夏休みの発表会を各学級で行いました。子どもたちが自分
が取り組んだことについて丁寧に説明し、それを聞いた人が質問や感想を述べていました。
どのテーマもとても興味深く、一生懸命チャレンジした様子が伝わるものでした。

さて、2019年にノーベル化学賞を受賞した吉野彰さんは、優れた研究をするために大切
なことを次のように語っています。

技術開発において、自身の技術や知識といった（シーズ；種）と市場のニーズを結びつ
けることは重要だが、それらは日々変化するため困難を伴う。技術の進化や新製品の登場
により必要性が移り変わる中、未来を見据えた長期的な予測と戦略が求められる。ただ現
在のニーズを追いかけるだけでは成功せず、先を読み、その方向に向かって行動すること
が鍵となる。

吉野さんのように、子どもたちが追究の鬼と化したチャレンジ夏休みをきっかけにして、
長期的な計画を立てたり、人生の羅針盤を見つけ出したりしてくれればこんなうれしいこ
とはありません。



【1年生】



【2年生】



【3年生】



【4年生】



【5年生】



【6年生】

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向けて

「個別最適な学び」と「協働的な学び」は、文部科学省が目指すべき次世代の学校・教育現場として掲げた令和の教育スタイルです。多様な子どもたちを誰一人取り残さず、特別な支援が必要な子どもたちも含め、一人一人の理解状況や能力、適性に合わせて個別に最適化された学びをさしています。

「個別最適な学び」は、「指導の個別化」と「学習の個性化」に整理されています。

「指導の個別化」は、一定の目標をすべての子どもが達成することを目指し、個々の子どもに応じて異なる方法で学習を進めることであり、その中で自分の特徴やどのように学習を進めることが効果的であるかを学んでいくことも含みます。

「学習の個性化」は、個々の子どもの興味・関心等に応じた異なる目標に向けて、学習を深め広げることを意味し、その中で子どもたち自身がどのような方向性で学習を進めていったらよいかを考えていくことなども含みます。

「個に応じた指導」にあたっては、「指導の個別化」と「学習の個性化」の2つの側面を踏まえるとともに、ICT 活用も含め、子どもたちが主体的に学習を進められるよう、それぞれの子どもが自分にふさわしい学習方法を模索するような態度を育てて行くことが大切です。

「協働的な学び」では、集団の中で個が埋没してしまうことがないように、子ども一人一人の良い点や可能性をいかすことで、異なる考え方が組み合わさり、より良い学びを生み出していくことが大切です。同じ空間で時間を共にしながら、互いの感性や考え方に触れ、刺激し合うことの重要性について改めて認識する必要があります。

そこで高取小学校では、ICT を活用しながら、これら2つの学びの充実に向けて「単元内自由進度学習」に取り組んでいます。「単元内自由進度学習」とは、一単元すべての学びを、教師の指示によってではなく、子どもたちが自ら選んだり決めたりして、自らの学習を組み立て進めていく学習方法です。今までのような一斉授業を基本とせず、例えば与えられた5時間で5つの動画を視聴したり、自分に合った方法で調べたことをワークシートにまとめたりしながら、自分のペースで学習を進めます。

「単元内自由進度学習」を行うために、私たちはこれまでの何倍もの教材研究と、自由に学ぶための教育環境の整備、そして何より子どもたちを信じて学習を任せる覚悟が必要になります。ご家庭におかれましても、これまで保護者の皆様も経験したことがない授業スタイルになるため、ご不安な点もあるかとは思いますが、どうか子どもたちを信じて見守っていただけたらと思います。新しい令和の教育スタイルに挑戦する高取小学校の取組みに、ご理解ご協力をお願いします。



【5年生 単元内自由進度学習のようす①】



【5年生 単元内自由進度学習のようす②】